

## 令和7年度 第5回 政策調整会議 会議録

- 
- ◆開催日時：令和8年1月27日（火） 10：25～10：40
  - ◆開催場所：第1委員会室
  - ◆出席委員：藤浪副市長、岸副市長、大下教育長、西川総合政策部長、谷口総務部長、  
新内財務部長、河畑建設部長
  - ◆説明者：黒見公園緑地課長、川端管理担当長
- 

### ◆審議事項

スマート公園岸和田アクションプランの策定について・・・・・・・・・・公園緑地課⇒承認

---

### ◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

- 〈藤浪副市長〉公園の大きさなど多種多様な公園があるので、基本的な考え方としては賛成である。  
例えば、校区の中で遊具もあり、地域の子育て世代の人が子どもと一緒に半日くらい遊べる公園など、特色を出すことに配慮しながら進めてもらえたらと思う。
- 〈岸副市長〉当該プランの推進には、年次目標は具体的に定めていないとあるが、みどりの基本計画を平成30年の3月に改定したときには20年という年次目標を設定した。みどりの基本計画のように年次目標的なものを定めていく方がわかりやすいと思うがいかがか。
- 〈管理担当長〉年次目標は定めてはいないが、みどりの基本計画が20年の計画になるので、10年目に見直しを考えている。その10年目が令和9年度にあたるので、できるだけ令和8年度と令和9年度の2年間で、校区ごとの個別計画のようなものを作成したいと考えている。
- 〈教育長〉今後、人口が減っていくということを考えると、既存公園の他の目的への転用ということも頭に入れながら考えていく必要があるかと思う。計画に書き込むということではないが、適正配置の中にそういう考え方もあるという理解をお願いしたい。  
多目的の公園というのは、実は非常に使い勝手が悪い。その地域の周辺に同種施設、例えば運動広場があるか等も見ながら、地域の人と、公園はどういうところをターゲットにして利便性を高めていくか、という議論をぜひしてほしい。全てというのは難しいと思うが、特色ある公園にした方が利用者は集中すると思う。
- 〈総務部長〉4月から各校区に入って話を進めていくということであるが、最初が肝心かと思う。今後のモデルになるような、また横展開できるようなところから優先的に、何パターンかピックアップして進めてほしい。
- 〈総合政策部長〉3つの基本方針のところ、維持管理から運用へという話があったが、指定管理者なども入ってくる話になると思うので、運用の具体的な例があれば教えてほしい。
- 〈管理担当長〉例えば、買い物難民の方がたくさんいるような地域では、地域包括支援センターと協

力し、平日の昼間に公園内に移動販売のトラックを置いていただき、地域の方に集まれるようにするなど、これまで平日の昼間には人がいなかったような公園について、新たな使い方を模索していきたい。人が集まることによって、自分たちでゴミを拾ったり、公園の周辺フェンスを越えるような木を切って、公園の真ん中にシンボルツリーを植えたり、花壇を一緒につくったりなど、指定管理者や私たちが地域の方々と一緒になってよりよい公園になるよう考えていけたら、地域の方に親しまれる公園づくりができると思っている。

〈総合政策部長〉 本件、原案のとおり政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり政策決定会議に付議する。

令和8年1月 16 日

## 政策調整会議付議依頼書

依頼者名 建設部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	スマート公園岸和田アクションプランの策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	現在、岸和田市が管理する公園緑地は、大小合わせて 310 ヶ所あり、市民の身近なオープンスペースとして、様々なリクリエーション活動や交流、健康増進などの賑わいの創出をはじめとして、ヒートアイランド現象の緩和や都市景観の向上、災害時における一時避難など市民生活における重要な都市インフラである。今後の社会情勢の変化を見据えつつ、財政負担の軽減を踏まえた公園緑地の整備や管理水準の向上を図り、持続可能な公園緑地マネジメントを実現するため、「スマート公園岸和田市アクションプラン」を策定するものである。
説明者	建設部 河畑部長 公園緑地課 黒見課長、川端担当長
付議事項の概要	別紙のとおり

付議会議	令和7年度 第5回会議
付議事項	スマート公園岸和田アクションプランの策定について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	公園緑地のストックマネジメントを実施し、維持管理の効率化と管理水準の向上を図ることで、市民が安心して利用できる公園緑地の実現を目指す。

★総合計画上の位置付け

<b>4020102</b>	基本目標	人と自然が共生した住みよいまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	人が緑と触れあっている
	個別目標の方向性	① まちの緑の適正な保全とまちの緑化を進める
	行政の役割	市民に親しまれる親水空間や公園づくりを推進する

★現状と課題

令和8年1月現在、市内には大小合わせて318箇所の公園緑地があり、多くの市民に利用されている。一方で、その大半は開設から30年以上を経過しており、ブランコ等の遊具をはじめ施設全体の老朽化が顕著である。安全性の確保と資産の有効活用の観点から、公園緑地の維持管理・更新に関するストックマネジメントの実施が重要な課題である。

国においては、都市公園の柔軟な管理・運営のあり方が提言されており、新たな価値創出や社会課題の解決に資するまちづくりの場としての活用が求められている。本市としても、こうした動向を踏まえ、時代の変化と多様なニーズに応える公園づくりを進める必要がある。

今後は、限られた財源と人員のもとで公園緑地の効果・効用を最大限に発揮させ、市民が安心して利活用できる環境を整備するため、スマート公園岸和田アクションプランを策定するものである。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R5年度	R6年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
スマート公園岸和田アクションプラン策定		5,837						
岸和田市みどりの基本計画中間見直し					3,000			
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源		5,837			3,000		
	その他							
事業費			計	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
			3,000	0	3,000	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性\*

人員増の必要性	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
有		1			
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R5年度	R6年度	R7年度	目標値				
					R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
① まちの緑の適正な保全とまちの緑化に対する満足度	%	62.4	60.5	57.2	60	62	65	67	70
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。